

事故で引退した元ラリーのコ・ドライバーが、
石焼き芋屋に転身して、雪山で事件に巻き込
まれた妻と子供を助け出す

石焼き芋ラリークロス

作・ほら

登場人物表

光吉 サトル (40) 元ラリーのコ・ドライバー。今は無職。

ノリさん (59) ベテラン石焼き芋屋さん。

明美 (38) 悟の妻

たくや (5) 悟と明美の息子

銀ちゃん (50代) ノリさんの友人

たてこもり犯
警察官たち

学生たち

ドライバー

○林道・猛吹雪

激しい吹雪の中、サトル（40）が助手席に乗ったラリーカーがうねる道を爆走している。サトルは行程が書かれたペースブックを手に、無線でナビゲーションしている。

サトル「F3、40すぐR2、キープ120、そのあとリバース「1：違う、R？ちよつと待って！ロスト！ストップ！ストップ！」
ドライバー「間に合わない！」
ラリーカーはヘアピンを曲がりきれず、ガードレールを突き破って崖下へ落下。

○公園・昼

サトル「うわあ！」
スーツにマフラー姿のサトルがベンチで飛び起きる。汗びっしょり。目の前に現れたのは焼き芋屋のおっさん（59）。焼き芋を差し出す。
おっさん「大丈夫か。芋食うか」

× × ×

ベンチに並んで話しているサトルとおっさん。脇には焼き芋屋のトラック。
サトルは焼き芋を食べている。
おっさん「よく無事だったな」
サトル「幸い僕もドライバーも怪我ですみましたが、2人ともそれで引退です」
おっさん「今は何やってんだ」
サトル「ドライバーはいまは解説です。私は事故以来ちよつとしたことでパニックになつてしまふ有様で、次の仕事も決まらずで」
おっさん「それで毎日ここにいたわけだ」
サトル「妻と息子は会社勤めだと信じてます」
おっさん「金は大丈夫なのか」
サトル「焼き芋買うくらいはまだあります。あ、お金」

財布から金を出そうとするサトルをとめておっさんが言う。

おっさん「いいんだ。あとこれ、嫁さんと息子さんに」

おっさんは焼き芋を2つくれる。

サトル「おじさん」

おっさん「ノリだ。毒島則武」

サトル「ノリさん、ありがとうございます」

窓から出した手でサムズアップして、

ノリさんは軽トラで去って行く。

トラック「いーしやーきいもー…」

○サトルのマンション・夕刻

薄暗くひと気のないリビングのテーブルの前で、サトルが立ち尽くしている。焼き芋の袋が床に落ちる。手に持つメモには

「しばらく琢也と実家にいます。明美」。その場で肩を落とすサトル。

○公園、入り口

ノリさんの焼き芋軽トラのところにツナギ姿で帽子と首にタオル、軍手をはめたサトルが現れる。

ノリさん「どどどどうした」

サトル、大きく頭を下げ

サトル「バイトとして、雇っていただけないでしょうか」

ノリさん「おいおい、頭上げろって」

サトル「お願いします！助手席は慣れてますので」

ノリさん「あいにくバイトは必要ない」

サトル「そんな」

ノリさん「ただし。本気なら、おれがお前さんを立派な石焼き芋屋にしてやる」

○石焼き芋軽トラ車内

サトルが運転している。汗びっしょり。
助手席のノリさんが言う。

ノリさん「次を左だ。どんぐり公園で止まる」

サトル「は、はい」

ノリさん「久々の運転席か？」

サトル「事故以来、運転してないもので…」

ノリさん「大丈夫だ。これなら飛ばすことは

ねえ。山道かつ飛ばすのもいいが、街をゆ

っくりまわるのも悪くないだろ？」

サトル「そ、そうですね…」

○どんぐり公園前・夕刻

石焼き芋の声を流しながら、じっと待
つふたり。時々通りがかる人に「焼き

芋ー焼き芋っ」と声を出しながら。

サトル「なかなか売れないもんですね」

ノリさん、腕時計を見て

ノリさん「いや、もうすぐ第一チャンスだ」

高校生の集団がわいわい歩いてくる。

ノリさん「焼き芋ー焼き芋っ。テストの点が

よくなるよー噂の焼き芋だよっ」

学生たちは「いた！」「毎日言ってる

よ」とか言いながら近づいて来て、

学生「3つください」

ノリさん「ほれ見ろ。いらっしやい！」

× × ×

時間がたち、うす暗い。

ノリさん「ここに何時に着いた？」

サトル「4時ぴったりで」

ノリさん「1時にお前さんのよくいる憩いの

公園、4時にどんぐり公園、毎日決まった

時間にいるようにしてる」

サトル「オフィスに近い憩いの公園は昼食後

のサラリーマン狙い、学校が近いどんぐり

公園は下校時刻に合わせて、ですね」

ノリさん「そうだ、わかりが早いな。そして

6時に、住宅街をまわって夕飯の足しにし

たい奥さんに売って、部活が終わる8時に
またここに戻って高校球児に売って、帰る」

サトル「毎日」

ノリさん「いつも同じ時間にいるってのが大
事だ。早すぎても遅すぎてもいけねえ」

サトル「ラリーと似てますね」

ノリさん「ラリーと石焼き芋がか？」

サトル「ええ、走りの正確性を競うアベレー
ジラリーというのがあるんですが、チェッ
クポイントまでの目標タイムに遅れるより
も、早く着く方が減点が重いです」

ノリさん「速けりやいいわけじゃねえんだな」

サトル「制限速度を超えないためです。事故
ったら、元も子もないですからね」

ノリさん「なるほどな。このトラックの運
転も、遅すぎちゃ道塞ぐし、速けりや誰も買
いに来れねえし、やっぱりラリーに似てる
のかもな」

サトル「ちようどいいってのが、意外と難し
いんですよ」

ノリさん「そうなんだよ、焼き芋もな。ちよ
うどよくうまくつくるのはなかなか難しい
ぞ。明日は芋の焼き方を教えるからな」

サトル「はい。よろしくお願いします」

○翌日・憩いの公園のベンチ・昼

サトルとノリさんが自作の焼き芋を食
っている。

サトル「うまい！自分でつくと格別ですね」

ノリさん「だろ？」

サトル「家じゃこうはいかないですから」

ノリさん「案外できるもんだぞ」

サトル「そうなんですか？」

ノリさん「ホームセンターで熱処理された石
を買って来れば、あとは鍋があればできる」

サトル「熱処理？」

ノリさん「一度高温で熱処理された石じゃな
いと、火で割れちゃうんだ」

サトル「なるほど」

ノリさん「まあおれよりうまくつくるのは、
難しいだろうけどな」

サトル「はははは」

ノリさん「嫁さんには電話したのか？」

サトル「直留守です。「LINEも既読スルー」

ノリさん「らいん？」

そこに突然、たくやが現れる。

たくや「パパ！今度は焼き芋屋さんになった
の？」

サトル「たくや！婦恋のばあちゃんちじゃな
いのか？ママは？」

たくや「あっち！」

軽トラのところに明美がいる。目が点。

× × ×

ベンチに座って、サトル、明美が焼き
芋を手話している。たくやをあやし
ながら軽トラから遠目に見るノリさん。

サトル「どうだ、うまいか」

明美「おいしいけど：意味がわからない」

サトル「とにかく働かないと思ってるさ：」

明美「働いてないのが嫌だったんじゃないっ
て。嘘つかれてたのがショックだったの」

サトル「お前だって実家だなんて嘘ついて」

明美「嘘じゃない。今夜からスノボ連れてく
から、ボードだけ取りに来たの」

○ 軽トラがとめてあるノリさんの家・夜

○ 同・客間

ちやぶ台にコンビニつまみを並べて1
杯やりそうなサトルとノリさん。ノリ
さんは奥さんの仏壇にビールをそなえ
ながら言う。

ノリさん「それで2人はスノボ行っちゃまたっ
てのか。お前さんも行きやよかったのに」
サトル「婦恋って：：事故ったところなんです」
ノリさん「そうなのか：まあでも、息子が寄

ってくるなんて今のうちだぞ」

サトル「ノリさんの息子さんは何を？」

ノリさん「何やってんだかな。電話もよこさねえ。畑も焼き芋もついでくれなかったよ」

サトル「そうなんですか……」

ノリさん「ちょうど跡継ぎか欲しかったところだから、お前さんが来て正直助かってる。今日はたっぷり飲んでくれ」

瓶ビールをつごうとしたノリさんの手が止まる。テレビに釘付けた。

テレビ「今入ったニュースをお伝えします。

群馬県嬭恋村の山荘で、男が客を人質に立てこもっているとのこと。現在判明している人質は、この山荘に泊まる

光吉明美さん38歳、光吉琢也くん5歳……

ノリさん「おい、これ……」

サトル「明美：たくや……」

テレビ「現在山荘周辺は悪天候のため警察車両も近づく事ができず、人質の安否が心配されています」

サトル「助けに行かなきゃ」

ノリさん「俺も行く」

○ 走行中の軽トラ

運転するノリさん、助手席のサトル。

サトル「ノリさん、うちに寄れませんか」

ノリさん「いいけど、どうしてだ？」

○ サトルのマンション

サトルが急いでものを探している。

サトル「ペースノート、ペースノート……あった！」

引き出しからノートを見つめる。

○ 嬭恋・山の麓の対策本部・夜・猛吹雪

警察が集まっているなか、サトルとノリさんが地図を指差して警察に説明し

ている。

警察官「ご協力、感謝します」

対策本部に初老の男性がやってくる。

男性「ノリちゃん！できたぞ！」

ノリさん「おう！すまん銀ちゃん」

○ 同・外・猛吹雪

ノリさんの焼き芋屋の軽トラのタイヤが4つすべてキヤタピラに変えられている。ノリさんが運転席、サトルが助手席に、マイク付ヘルメットをかぶって乗り込む。銀さんが声をかける。

銀さん「さあ、いってこい」

ノリさん「銀ちゃん、助かったぜ」

サトル「ありがとうございます」

ノリさん「さあ、最高に危ない出張販売だ。

頼んだぜ、コ・ドライバーさんよ」

サトル「はい」

ノリさん「(無線をとって)では警察の皆さん、コ・ドライバーのナビゲーションは無線で中継致しますので、私たちにびったりくっついて来てください」

警察車両が後ろに続いている。ドライバー次々と無線で「了解」「了解」

ノリさん「いくぞ。大丈夫か」

サトルはペースノートを持って深呼吸。

サトル「大丈夫です。熱処理は終わりました」

ノリさん「ははは、割れるんじゃないぞ」

サトル「はい。10秒前、9、8、…」

ノリさん「ラリー式か」

サトル「5秒前、4、3、2、1、スタート」

ノリさん「おらあああああ！」

エンジンをフル回転させ、キヤタピラ式焼き芋軽トラが走り出す。

サトル「キープ300、そのあとゆるい左」

ノリさん「おう！」

ノリさんがスピーカーのスイッチを入れる。いーしやーきいもー♪の音色を響かせながら、焼き芋軽トラと警察車

両が雪山に消えて行く。

○ 軽トラ車内

サトル「ややきつい左、キープ40す
ぐきつい右、キープ120、そのあと…」
ノリさん「そのあとなんだ！」

サトルの脳裏に事故がフラッシュバツクする。

サトル(回想)「そのあと…リバーズ」1…違
う、ア?ちよつと待って!ロスト!ストツ
プ!ストツプ!」

崖を落ちるラリーカー(回想)

しかしすぐ振り切って、
サトル「ちよつと右のあときつつい左!」
ノリさん「よしきた!」
大きくハンドルを切るノリさん。

○ 林道・夜・猛吹雪

石焼き芋軽トラと警察車両の列が雪道
を爆走していく。

○ 山荘・1階テラス・猛吹雪

椅子に縛り付けられている明美、たく
や。凍えてぐったり。明美が中に叫ぶ。

明美「お願いします!この子だけでも暖をと
らせてください!」

建物の中のたてこもり犯が銃を持って
答える。

たてこもり犯「だめだ!お前らが凍え死ぬの
がタイムリミットだからな」

明美「そんな…たくや…大丈夫だからね」

たくや「ママ…パパの焼き芋がたべたい」

明美「わかったよ、絶対に助かって、帰った
ら一緒に食べようね」

たくや「ママ…パパが来てくれたよ」

明美「なに言ってるの。たくやしっかりし

て！」

たくや「ほんとだよ、聞こえない？」

○ 山荘1階ロビー

たてこもり犯が耳をすます。

たてこもり犯「ん？」

遠くから聞こえてくるのは、石焼き芋屋のメロディ。

「：しやーきいもー、やーきたて：」

たてこもり犯「まじかよ：」

○ 同・テラス

たくや「ほら！パパだよ！」

明美「うそでしょ：」

明美たちにも聞こえてくる、石焼き芋屋のメロディ。近づいて来て、山荘の目の前で止まる、軽トラと警察車両。

たくや「パパ！」

サトル「たくや！明美！」

サトルとノリさんが降りて来て、たくやと明美に駆け寄る。警察官たちは一部3人の拘束を解き、一部山荘に突入していく。

警察官たち「突入！確保ー！」

ノリさん「よくがんばったな」

たくや「パパ、やきいもたべたい」

サトル「（半泣き）おう、すぐ食わせてやる」

サトル、明美とたくやをグループハグ。

○ 数日後・対策本部・昼・晴

もとのタイヤに戻った軽トラに乗ったノリさんとサトル。並んだ乗用車に明美とたくや。軽トラ助手席のサトル、乗用車の運転席の明美に焼き芋の袋を渡す。

サトル「これ、帰り道に」

明美「ありがとう」

○ 軽トラ車内

ノリさん「やっとラリーしたな」

サトル「え？」

ノリさん「調べたぞ。ラリーってのは、再び集まる、って意味らしいな」

サトル「そうなんですか：知らなかった」

ノリさん「なんだよ。んじゃ、コ・ドライブ

ーさん、ナビお願いできますか？」

サトル「はい。このまままっすぐ：ちようどいいペースで」

いーしやーきいもー：♪

石焼き芋屋のメロディを流す軽トラと
後ろに続く乗用車が、嬌恋のまっすぐ
な道を走っていく。

終

参考資料

